

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第2区分

【発行日】平成26年7月3日(2014.7.3)

【公開番号】特開2013-38240(P2013-38240A)

【公開日】平成25年2月21日(2013.2.21)

【年通号数】公開・登録公報2013-009

【出願番号】特願2011-173519(P2011-173519)

【国際特許分類】

H 01 F 27/12 (2006.01)

H 01 F 30/00 (2006.01)

【F I】

H 01 F 27/12 Z

H 01 F 31/00 S

H 01 F 31/00 H

【手続補正書】

【提出日】平成26年5月16日(2014.5.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

トランスケースと、蓋とを備え、前記蓋には高圧ユニットを吊り下げ固定する複数の支柱を設け、前記トランスケースと前記蓋との内部には冷却油を封入した、直流放電で励起を行うガスレーザ発振器に用いる高電圧を発生する高圧トランスであつて、

更に複数の穴を形成した絶縁物から成る内蓋を、トランスの冷却油の液面より下面側で前記支柱に固定したレーザ発振器用高圧トランス。

【請求項2】

前記内蓋が前記支柱にOリングを介して固定されている請求項1に記載のレーザ発振器用高圧トランス。

【請求項3】

環境温度0 のときに前記内蓋を、液面下6ミリメートル以上となるように配置した請求項1または2に記載のレーザ発振器用高圧トランス。

【請求項4】

前記蓋を、前記冷却油が100 に上昇したときに前記冷却油面に対して空間を維持できる高さに配置した請求項1乃至3のいずれかに記載のレーザ発振器用高圧トランス。

【請求項5】

前記内蓋が凹面状に反るように前記内蓋の取り付けに対して前記内蓋を押すように押し棒部を前記蓋に設けた請求項1乃至4に記載のレーザ発振器用高圧トランス。

【請求項6】

前記内蓋の凹面状の反り量を1mm以上に設定した請求項5に記載のレーザ発振器用高圧トランス。